

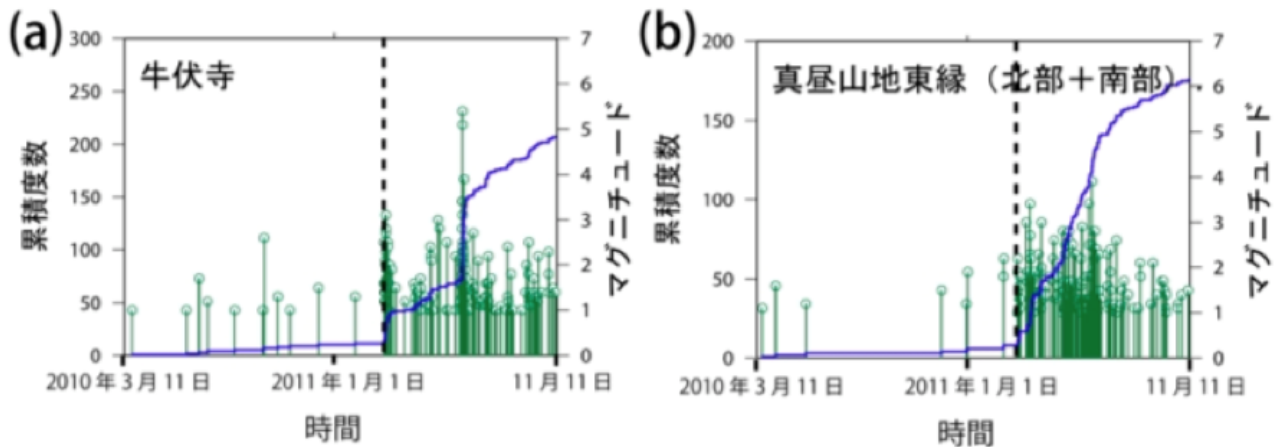


図5. a) 牛伏寺断層(b) 真昼山地東縁断層帯周辺における本震前後の地震活動変化(M-Tダイアグラムと累積頻度曲線)。縦破線は3月11日東北地方太平洋沖地震の発生時を表す。(東京大学地震研究所 [課題番号: 1419])

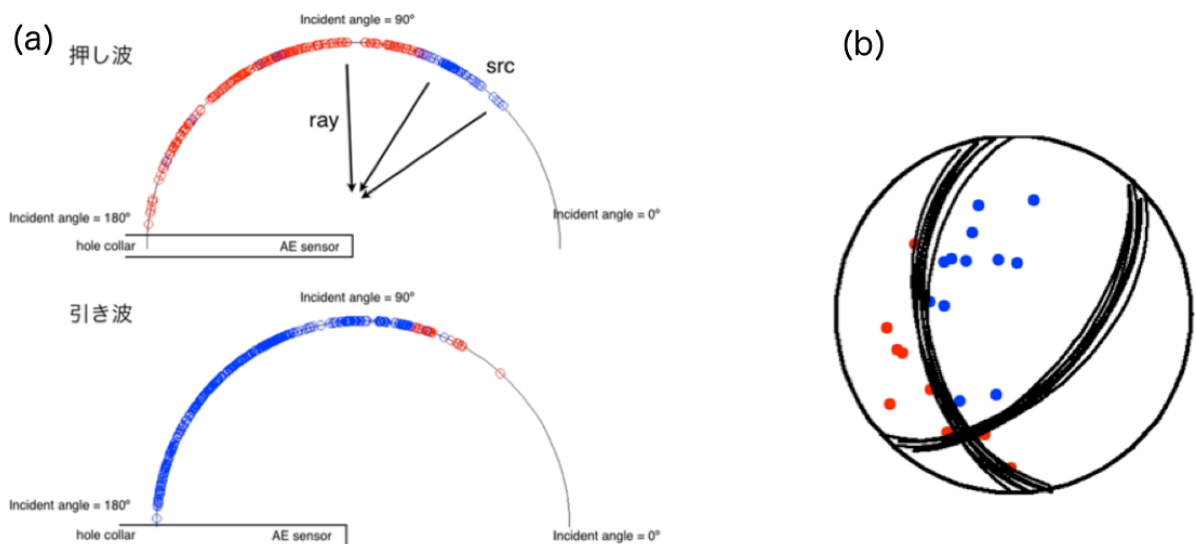


図6. (a) AEセンサ出力の初動極性の確認. 押し波が入射した場合(上側の図), 前方から入射すればAE センサ出力はマイナス(青丸), 後ろから入射すればプラス(赤丸)となり, 引き波(下側の図)では逆になる。極性の反転は, センサ正面の入射角を0度, 真後ろを180度としたとき, 70-75度でおこる。(b) $M_w = -3.3$ イベントのメカニズム解: 押しが赤, 引きが青。断層面解のラインは波形合わせの残差が小さく, かつAEセンサの押し引き分布がよく説明できるところ。下半球投影。(東京大学地震研究所 [課題番号: 1420])

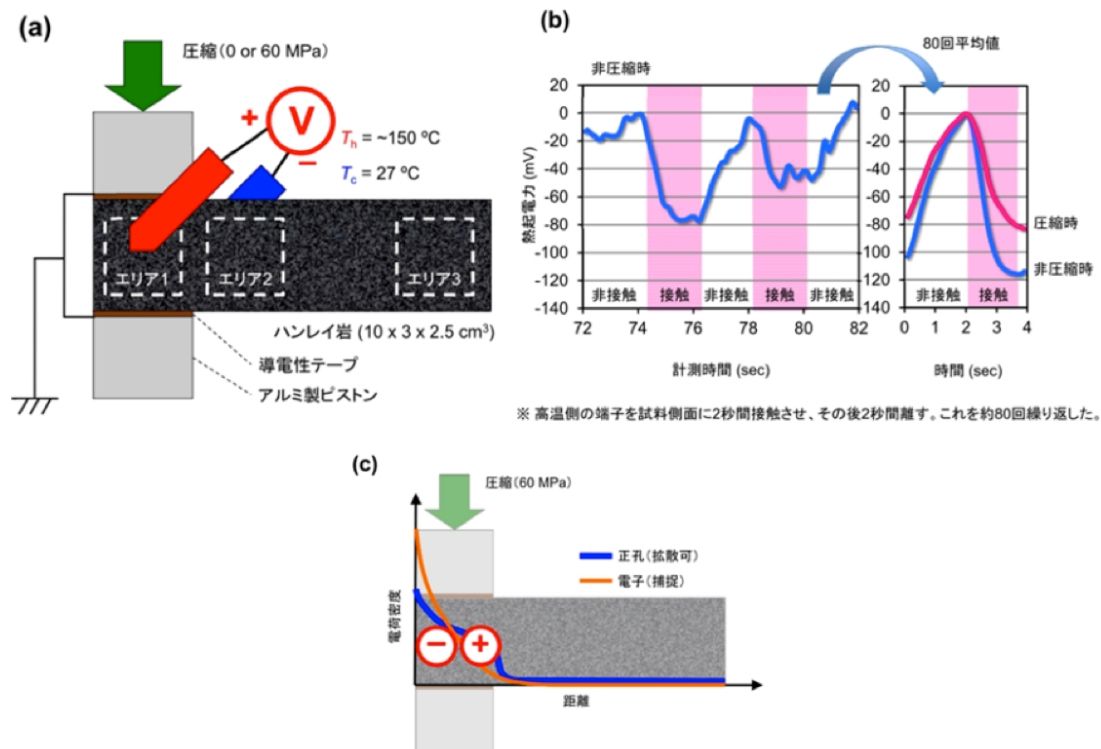


図7. 正孔の発現を証明する室内岩石圧縮実験。(東海大学 [課題番号: 2501])

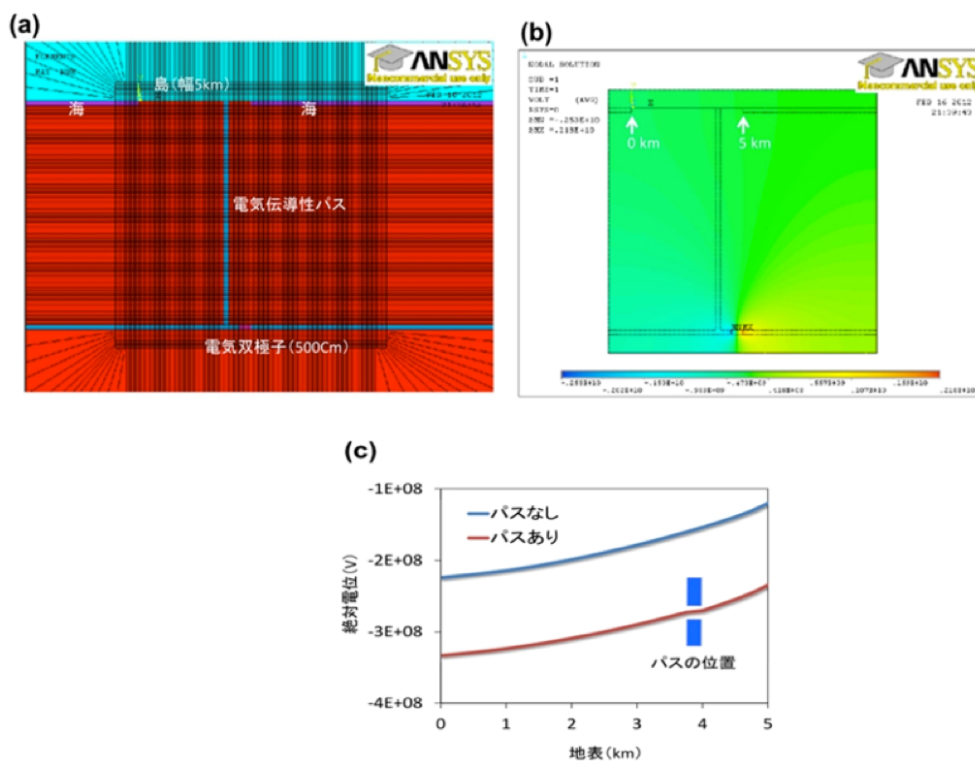


図8. 地下10 kmに仮定した電流双極子が地殻内に形成する電場の有限要素法によるシミュレーション (東海大学 [課題番号: 2501])。